科目名(英語名)	科学技術コミュニケーション入門(Introduction to Science Communication)				
単位数	2	配当年次	1	開講時期	前期
対象コース	全コース 学部共通選択				
科目群	【学部共通科目群】				
全教員名	辻 義人				
授業・試験の形式					
授業概要	本科目は,科学技術コミュニケーションの理念と実践について,対話式の学習活動を通して学ぶものである.科学技術コミュニケーションとは,科学技術の専門家と非専門家(市民)とを結びつけ,お互いの対話や理解,さらには,連携や協働を実現するための活動である.身近な例として,「はこだて国際科学祭」が挙げられる.はこだて国際科学祭の2022年度のテーマは「食」である。本科目では,はこだて国際科学祭の取り組みに注目し,以下の3点について考察する. (1)なぜ科学技術コミュニケーション活動が必要なのか,(2)具体的にどのような活動が行われているのか,(3)地域において科学技術コミュニケーション活動を展開する方法。				
キーワード	科学技術,コミュニケーション,社会連携,専門家と非専門家(市民)の協働,食の安全,食育				
到達目標	(1) 専門家と市民の対話や学習のデザイン,また,科学技術コミュニケーションに関する基本的な知識や技能を身につける. (2) 受講者間において対話や議論を行うことを通して,連携的・協働的な活動を実体験する. (3) 本科目で予定している対談講演会,また,はこだて国際科学祭の参加体験に基づき,受講者と科学技術コミュニケーション活動の関係性を検討する. (4) 今後,受講者が社会に対してできること,また,やってみたいことをプロジェクトとして検討し,議論と発表を行う.				
授業計画	本科目は,科学技術コミュニケーション活動に関する講義,ゲスト講師による講演会,受講者どうしのディスカッションや協働作業などのアクティビティから構成される.本科目の概要について,以下に示す.なお,講演会ゲストとの内容調整,また,受講者のアクティビティへの活動状況によって,内容や構成が変更される可能性がある. ・授業ガイダンス ・ゲスト講師による対談講演会 ・講義(科学技術コミュニケーションの概念と実践) ・議論と発表(受講者の参加経験、期待される活動のあり方) ・最終プレゼン(科学技術コミュニケーション活動のプロジェクト化) ・授業の振り返り 本科目の開講に際して,オンライン形式(Zoom等)での実施を予定している.本科目の開講日程は三日間であり,2022年度の開講日時は,夏季集中科目の開講期間を中心に調整を行う。本科目の開講日程について,今後のアナウンスに注意すること.				
事前・事後の学習	本科目の受講に際して,科学館や博物館等の主催する科学技術イベントへの参加経験があることが望ましい.また,本科目の授業内容を踏まえ,はこだて国際科学祭の何らかのイベントを聴講する必要がある.				
成績の評価方法	出席状況,講義中の発言や参加・貢献態度,講義期間後のレポートに基づき,総合的に成績評価を行う.単位認定要件として,開講期間(三日間)の全プログラムに参加する必要がある.				
教科書・参考書	教科書は指定しない.必要な資料は、適宜配布する. なお,科学技術コミュニケーションの理念や実際について,より深い理解を促す資料として,以下の参考書を紹介する. ギルバート J. K. and ストックルマイヤー S.(2015)現代の事例から学ぶサイエンスコミュニケーション一科学技術と社会とのかかわり、その課題とジレンマー, 小川義和・加納圭・常見俊直(監訳), 慶應義塾大学出版会				
履修上の注意	・履修希望者が多数の場合,何らかの方法(抽選,または,事前レポート課題等)によって履修制限を行う. ・本科目の開講形式について,Zoomを用いたオンライン形式での開講を予定している.履修に必要な情報(URL等)は,履修者が確定した後に通知する.なお,受講に必要な環境(通信端末,また,接続環境等)は,履修者が各自で用意する必要がある.				
DSOP対象コース			DSOP科目群		
備考	・本科目は,キャンパス・コンソーシアム函館における単位互換科目、南大阪地域大学コンソーシアムにおける広域単位互換科目に指定されている.また,サイエンス・サポート函館における「科学寺子屋」として,広く一般市民の参加を募集している. ・本科目の履修可否,開講日程,受講要件について,追ってメールで連絡を行う.本科目の履修希望者は,事務局のアナウンスに十分に注意すること.				